

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念を月刊誌、職員倫理綱領の冒頭に掲出すると共に、事業所独自の理念を作りあげている。(詳細は別紙)</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の朝礼で、管理者と職員は運営理念を唱和したり、日々のサービス提供の場面において、理念の実践に向けて意思統一を図っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>自治会、老人会、幼稚園、小学校行事に参加したり、招いたりして、理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。事業所発の回覧板を発行し、自治会で回覧してもらっている。なお、設立以来、毎月の家族会の開催、平成18年4月以降は、2か月に一度、運営推進会議(主管課長、自治会長、元老人会長、家族代表参加)を開催し、事業所の運営報告、意見交換を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的な散歩時の挨拶はもちろん、回覧板を回したり、事業所隣接の畑のボランティアの方々との交流など、地域との人間関係が深められるように日常的に努力している。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会主催の夏祭りへの参加、小学校との交流授業(なるたき学習)、幼稚園との交流、地元敬老会への参加など、地域行事への積極参加や事業所への招き入れ、特に、ボランティアと入居者が協働で、畑の野菜作りを通して交流している。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成の一貫として、実習生の受け入れを積極的に行っている。入居者と一緒にお地藏さんの花替えや水替えをしたり、ゴミ拾いを行っている。なお、認知症に対する理解を深めていただけるよう、回覧板で、地域に対して認知症図書の貸し出しを呼びかけたり、機会を設けて、認知症に対する偏見払拭の活動をしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>設立2年目で外部評価の要改善事項ゼロを達成し、その後も自己評価を全職員で行ったり、家族アンケートを実施して、サービス改善を行うなど、サービスの質の向上に不断の努力を重ねている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議(町主管課長、自治会長、元老人会長、家族代表2名、利用者代表2名)の委員の方に毎回参加いただき、報告・話し合いを行い、意見や助言をいただき、サービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>通院の件、居宅事業としての不明瞭な位置づけの部分に対して、町の担当者と話し合う機会を設け、情報交換を行っている。また、町社協から車椅子の貸し出しを受けるなど、連携を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者に扶養義務者がいない人がおり、既に成年後見制度を利用している。その担当の司法書士等から情報をいただいたり、成年後見制度について学ぶ機会を持っている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>町主催の虐待防止講演会に参加するなど、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持つと共に、高齢者虐待防止マニュアルで虐待の兆候を勉強するなど、その防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明している。契約解除の場合、家族と十分な話し合いを行い、理解、納得を得た上で、手続きを行っている。必要に応じて、退居後の生活の配慮や対応(特別養護老人ホームへの優先入所手続き)を行うことを伝えている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の接触を通じて、入居者の思いを把握するよう努力し、入居者からの意見、不満、苦情を、ユニット会議、職員会議でオープンにして、対応策を検討すると共に、家族に連絡、相談している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月刊の事業所独自の便りと法人発行の便りに、担当職員が金銭出納表を同封し、近況報告を毎月行っている。緊急時にはその都度、家族に連絡、報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月例の家族会では、利用者、家族、職員がユニットで一堂に会食の後、各ユニットの家族のみで話し合う時間を設け、家族が匿名で意見、要望、苦情等を運営者側に出せるようにしている。他にも郵送で家族アンケートを実施して、その意見をケアに反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の朝礼、ユニット会議、月例の職員会議等で、職員が意見を述べられる機会を設け、運営に反映している。また、随時に意見があれば、メール等でも運営者や管理者に気軽に意見が述べられるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出など、状況に合わせた勤務を組んでおり、必要に応じて、柔軟に職員の配置を考えている。職員の病気など、急な休みにも対応できるよう、人員の確保に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を重要と考え、職員の異動、配置の際には業務引継ぎ、紹介など、最善の努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力レベルに応じて、外部研修へ積極的に参加させている。研修内容は私蔵することなく、全職員が共有できるよう、研修報告書を全職員が閲覧している。毎月、全職員を対象に「パーソンセンタードケア研修会」を開催している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が県グループホーム協議会の研修委員を拝命しており、県協議会の研修会の開催、情報交換会等で意見交換をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が、悩みを述べやすい雰囲気作りに努めている。また、休憩時間には休憩できる場所(休憩室)を設けている。事業所内で犬を飼い、「癒されている」という職員もいる。1人3,000円の予算で、職員の希望でリフレッシュ対策をしている。他に、リフレッシュ旅行(18事業所職員の親睦)という機会を設け、有給休暇を取得しやすい配慮で、交流、ストレス軽減の取り組みを実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回の健康診断で、心身の健康を保つための対応をしている。向上心を持って働けるように、年単位で目標管理シートを作成している。また、各自が評価した後、上司が評価する人事考課制度も導入している。他に、新規資格取得者の表彰等で意欲促進も行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのような時でも本人が何を求めているのか、知るよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問時、家族会等でこれまでの経緯を聞き、要望を受け止める努力をしている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には可能な限り、法人の提供する18種類のサービスのうちから、柔軟な対応ができるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、本人、家族に事業所に見学に来てもらったり、行事に参加してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互いさまであるという関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に、随時報告し、よりよい関係を築いていけるよう支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係も考慮し、家族が訪問しやすい環境作りや行事の案内、近況報告などを行い、良い関係が継続できるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行ったり、馴染みの場所へのドライブ、散歩をしたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士をの関係性に配慮しながら、おやつ、食事、レクリエーションの時間には、職員も一緒に加わって、多くの会話をもちながら、良好な人間関係づくりに努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方に、入居者と一緒に会いに行ったり、手紙を出したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人の入居前の生活歴を把握し、馴染みやすい環境作りに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との昔話、写真等から、利用者の昔の思いを引き出しながら、一人ひとりの生活歴を把握し、自分史づくりに取り組んでいる。この作業は、目標である「利用者の思いや意向の把握」ということに止まらず、利用者、家族との良好な信頼関係づくりという視点で鋭意努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握、理解に努め、持てる力を十分に発揮できるように、職員間で話し合う機会を持つようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過をみながら、体調の変化等、何か問題があると捉えたとき、申し送りノートで職員に確認し、臨機応変に見直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、日常の様子やケアの実践を記録している。また、利用者の状態変化や職員の気づきなどは申し送りノートに記録し、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診や理美容訪問があり、希望者は利用できる。本人、家族の状況に応じて、通院介助や外出支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域との様々な接点を見だし、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内の図書館の利用や地域の公民館活動にも参加している。また、本人、家族の希望に応じて、理美容訪問サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などでは、主管課長より広く意見を伺い、よりよいサービスの向上に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、心療内科、整形外科、歯科)との連携により、訪問医療など、臨機応変に医療を受けられるよう支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症の人の医療に熱心で、適切な指示や助言をしてくれる医師を確保している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護資格を持った職員がおり、健康管理について相談できる態勢をとっている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>主治医、連携病院との連絡を密にし、いつでもすぐに対応できるように努めている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のあり方については家族と話し合い、ホームでの最大の支援方法について理解、納得していただき、職員全員が方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療機関とも連携を図るよう、体制作りの準備中である。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>別の居所に移り住む際は、家族や本人の理解を十分得るよう、関係者間で情報交換を行っており、少ないダメージで済むよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>常に入居者の一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>職員の倫理や都合を優先させて決めたりせず、入居者に複数の選択肢を提案して、できるだけ自分で決める場面を作っている。また、職員倫理綱領の第2条(個人の尊厳の尊重)、第6条(プライバシーの保護)についての実践を徹底している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>生活のリズムづくりのため、基本的な一日の流れや日課は作っているが、買い物や散歩など一人ひとりの状態や、その日の気分や感情にも配慮しながら対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>理美容院は本人や家族の意向を伺い、希望に沿うよう配慮している。特に希望のない入居者については、地域の美容院を利用している。外出時には化粧をしたり、おしゃれをして出かけている。本人の希望により職員が毛染めを行っている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>三度三度の献立や食材は、入居者と考え、畑で取れた物を使い、季節を味わえるようにしている。入居者の誕生日には、本人の食べたいものを伺い、メニューに取り入れたり、外食に行くこともある。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>職員は入居者の嗜好物を理解しており、家族からの差し入れは他の入居者に配慮しながら、食していただいている。気分を変えるため、外出してお酒を楽しんでいただくこともある。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状況に応じて、下着やパットを使用している。訴えのない入居者には、時間誘導や行動サインを職員が察知して、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を毎日希望する入居者には、毎日入浴していただいている。無理強いをすることなく、気持ちよく入浴できるよう支援している。夜間浴の希望があれば、実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	薬に頼ることなく眠れるよう、日中の活動を活発に行っている。年齢、体調、希望を考慮し、ゆっくり休息がとれるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意分野を把握し、活かせるように支援している。レクリエーションの一環として、島外へボーリングに出かけた。地域の行事(地域夏祭り、幼稚園夏祭り、地区運動会、地区敬老会、地域秋祭り)等へ参加している。また、菜園において、野菜作りを楽しんでもらっている。平成18年度においては「一億円貯めて、夢を叶えよう」というプロジェクトを実施して、利用者の意欲向上を支援した。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には、自分で財布を持っていただき、買い物をした際は、自分で支払っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、本人の希望に応じ、散歩に出かけている。買い物、ドライブ、喫茶店、外食、また、弁当を持って戸外に外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望に沿って、墓参りに出かけたり、在宅生活の延長で信仰を継続できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を希望する利用者には、毎年出せるよう支援している。家族からの電話はプライバシーに配慮し、居室で電話をとりついでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員はいつも笑顔で迎えている。面会時間を設定しているが、家族の事情に応じた柔軟な配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束予防委員会を設置し、毎月職員会議で、全職員に身体拘束をしないケアの実践ができているかを確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室に鍵をかけず、自由に入出入りできるようにしている。外出しそうな様子を察知したら、止めることなく、外出していただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在や様子を常に把握している。夜間も数時間ごとに、安眠妨害に配慮しながら、利用者の様子、状態を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に関しては、保管場所、保管方法を取り決めて、しっかり管理ができている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が救急救命講習を受けており、事故発生時には、ヒヤリハット、事故報告書を作成し、再発防止に努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED(自動体外式除細動器)を設置し、職員全員が消防署主催の救急救命法講習を修了し、事故発生時に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ほぼ毎月避難訓練を行っている。地域の協力体制については自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。 なお、10月31日に地元自治会と災害時協力協定書を交わし、今後の災害時に、地元住民の避難場所として施設を利用できるようになった。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクマネジメントのマニュアルを作成し、管理者、職員の情報、連絡を密にして、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や些細な表情の変化も見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化や気になることがあれば、かかりつけ医に連絡、相談し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアル、服薬管理表を作成し、処方箋のコピーをケースごとに整理し、職員が把握できるようにしている。変化は個人記録に残し、医師に報告している。内服の変更があれば、申し送りノートを活用し、全員に周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や、乳製品を献立に取り入れている。個々に応じた飲食物の工夫、体を動かす工夫を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者の能力、また、職員の指導と能力に応じて、指導と介助による支援を行っている。毎月、歯科衛生士の指導を受けている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に管理栄養士の専門的なアドバイスをもらっている。入居者の体調、嗜好を考慮し、工夫した支援を行っている。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染予防委員会を設置し、毎月職員会議で学習して、予防対策に努めている。入居者及び家族に同意を得て、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策とし、ペーパータオルを使用したり、各トイレにはハンドドライを設置し、予防を徹底している。また、使用か所に応じ消毒している。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板やふきん等は毎日消毒を行い、清潔保持を実施している。地域商店からの仕入れの際は、新鮮な物を配達してもらえるよう協力をお願いしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りにはプランターに花を植え、玄関内には花を生けて、心が和む環境を心がけている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファ、畳ベンチを設置し、清潔、整理整頓を心がけ、室温、湿度にも注意し、居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間にはソファ、椅子、マッサージチェア等を置き、居心地の良い空間を作っている。足を伸ばしてくつろげる畳の部屋も用意している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の馴染みのある、仏壇、ダンス、椅子、写真を持ってきていただき、居心地よく生活できるような工夫をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>外気との温度差があるときは、温度計と利用者の様子を見ながら、こまめに温度調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>月に一度安全点検日を設け、危険箇所があれば、随時改善している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の表札には、利用者の好きな花を飾ったり、トイレには利用者に分かる呼び方の表示を行っている。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭には花壇を作り、季節の花を植えている。畑には季節の野菜を植えて収穫している。ベランダでの会食や炭焼きバーベキュー等で、アウトドアでの家族交流行事などを楽しむ等、活用している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、3食の食事は入居者と一緒に作ることを基本としています。地域のボランティアの方に来ていただき、季節の野菜作りを楽しんでおります。収穫した野菜は食材としたり、地域の幼稚園や近所へおすそ分けすることもあります。漬け物、梅干し、団子、ジャム作りも楽しんでいます。入浴は、毎日希望される方には、毎日入っていただいています。天気の良い日には、散歩、買い物に出たり、ドライブ、外食や喫茶店でお茶を飲んだり、図書館や本屋に行ったりします。